

「台湾の高等教育機関における欧日言語専攻者を 対象とする語学力評価」研究計画 —日本語力評価報告—

財団法人言語訓練測驗中心

1. 研究の動機と目的

現行の台湾高等教育機関における日本語専攻者を対象に、その聴力、用法、語彙・読解での習得状況を調査し、そして外国語能力試験 (Foreign Language Proficiency Test, FLPT) の主な受験対象者となる公的機関・民営企業の社会人受験者と比較し、日本語能力において顕著な差異があるかどうかを研究するために、言語訓練測驗中心の張漢良主任の発起により、「台湾の高等教育機関における欧日言語専攻者を対象とする語学力評価」日本語研究計画が実施された。

2. 研究方法

2.1 サンプル抽出法

台湾で四十を超える日本語・文学、応用日本語学科の中から七校にサンプリングを依頼し、テスト実施の協力を得た。

サンプルの抽出は、層別無作為抽出法 (stratified random sampling) が採用された。

表一 学校別出席者数統計 *南部にある学校

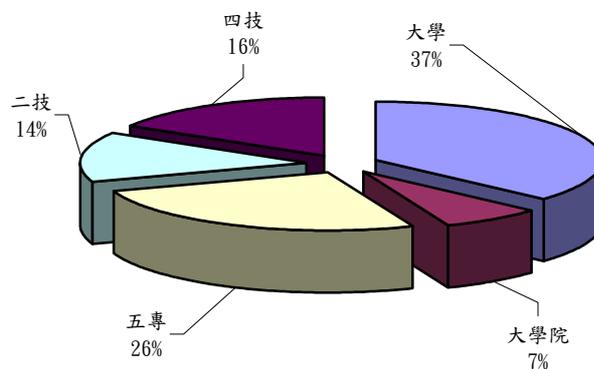
学校	通知者数	出席見込 者数	出席者数	サン プル抽出 達成率%	無効のサン プル数
A	165	124	85	69%	20
*B	264	198	245	124%	-
C	165	124	62	50%	1
D	165	124	91	74%	8
*E	132	99	94	95%	-
F	165	124	133	107%	-
G	165	124	139	112%	4
合計	1221	917	849	93%	33

表二 学制・学年別有効サンプル出席者数

学年	大学	大学院	五専	二技	四技
一	90	36	33	57	85
二	95	21	30	57	29
三	60	-	27	-	20
四	55	-	59	-	*
五	-	-	62	-	-
合計(人)	300	57	211	114	134

*今回サンプリングした学校において、四技はすべて新設の学制で、現在のところ、三年生までしかない。

図一 学制別による有効サンプル率



2.2 評価方法

今回の研究計画で使われる評価方法については、客観的な評価法と主観的な評価法という二通りの方法がある。客観的な評価法では、外国語能力試験の日本語能力試験が採用された。そして、主観的な評価法では、全受験者及び日本語教師に対するアンケート調査法が採用された。

表三 日本語能力試験 筆記試験様式と問題数

試験項目	問題様式	問題数	試験時間
聴力	I. 応答	15	約 30 分
	II. 理解	15	
	III. 会話及び長文	20	
用法	文法、文型パターン	80	40 分
語彙・読解	I. 語彙：単語、慣用語句	40	60 分
	II. 読解：6 篇の文章	20	

2.3 試験実施時期

学生の学習能力がピークに達している学年後期で中間テスト終了直後の三週間以内とした。

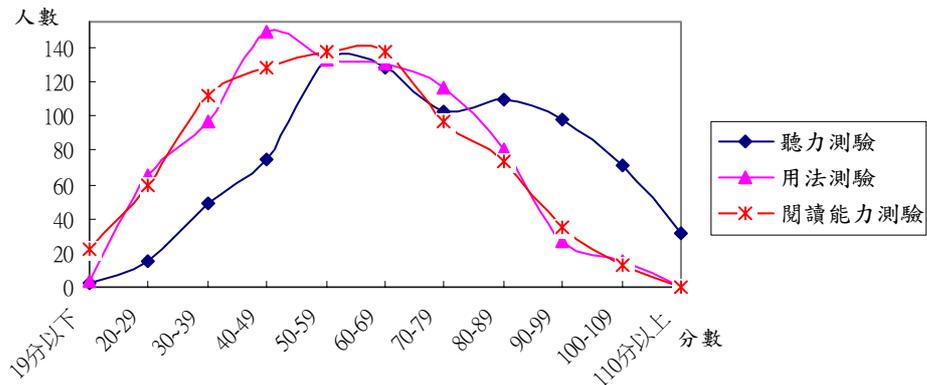
3. 試験結果の統計的分析

3.1 各項目試験結果の統計的分析

表四 各試験項目の統計的分析

項目	聴力試験	用法試験	語彙・読解試験
平均値	71.04	57.20	55.73
中央値	71	56	56
最頻値	62	65	56
標準偏差	22.24	19.80	20.62
歪度	-0.05	0.21	0.13
尖度	-0.87	-0.66	-0.63
信頼性(Alpha)	0.9	0.92	0.9
標準誤差	7	6	7
サンプル個数	816	816	816

図二 各試験の得点分布図



3.2 各試験の得点分布

表五 各試験の得点分布

得点範囲	聴力試験			用法試験			語彙・読解試験		
	人数	累計人数	累計%	人数	累計人数	累計%	人数	累計人数	累計%
110点以上	32	32	4%	0	0	0%	0	0	0%
100-109	71	103	13%	15	15	2%	13	13	2%
90-99	98	201	25%	27	42	5%	35	48	6%
80-89	110	311	38%	80	122	15%	74	122	15%
70-79	103	414	51%	116	238	29%	97	219	27%
60-69	128	542	66%	130	368	45%	137	356	44%
50-59	133	675	83%	133	501	61%	138	494	61%
40-49	75	750	92%	149	650	80%	128	622	76%
30-39	49	799	98%	97	747	92%	112	734	90%
20-29	15	814	100%	65	812	100%	60	794	97%
19点以下	2	816	100%	4	816	100%	22	816	100%

3.3 学制・学年別による成績分析

表六 学制別の各試験の平均得点

学制	聴力	用法	語彙・読解
大学院	100.18	87.74	88.14
二技	84.30	71.02	69.82
大学	71.18	55.96	56.37
四技	67.94	54.28	51.00
五専	57.79	45.09	41.43

表七 大学学年別の各試験の平均得点

学年	聴力	用法	語彙・読解
1年生	55.21	39.69	41.24
2年生	75.20	60.98	59.20
3年生	78.58	62.42	64.67
4年生	82.27	66.85	67.20

表八 五専学年別の各試験の平均得点

学年	聴力	用法	語彙・読解
1年生	35.76	25.70	23.39
2年生	47.40	38.97	35.27
3年生	56.63	44.44	40.67
4年生	59.42	46.00	42.34
5年生	73.48	57.79	53.48

表九 四技学年別の各試験の平均得点

学年	聴力	用法	語彙・読解
1年生	63.31	50.93	47.72
2年生	79.69	63.76	61.31
3年生	70.60	54.80	50.00

表十 二技学年別の各試験の平均得点

学年	聴力	用法	語彙・読解
1年生	81.63	68.19	67.40
2年生	86.96	73.84	72.25

表十一 大学院学年別の各試験の平均得点

学年	聴力	用法	語彙・読解
1年生	98.58	86.11	86.94
2年生	102.90	90.52	90.19

3.4 性別による平均得点

表十二 男女別平均得点

性別	人数	人数%	聴力	用法	語彙・読解
女	661	81%	71.28	57.29	55.89
男	155	19%	70.03	56.81	55.05

3.5 FLPT 社会人受験者との比較

表十三 大学生と FLPT 社会人の各試験平均得点

項目	人数	聴力	用法	語彙・読解	合計
在学生	816	71.04	57.20	55.73	183.96
社会人	1468	56.57	53.89	58.91	169.37

4. 結語

全受験者の三項目試験の成績では、聴力が最も良く、用法、語彙・読解がそれに続いている。

聴力の成績が良かった原因：

- (1) 週平均授業時間数が多いことと日本語による授業の比率が高いこと。
- (2) 学生が自己学習において聴力の訓練により多くの時

間をかけていること。

学制別の三項目試験成績では、大学院＞二技＞大学＞四技＞五専という順序になっている。学制で代表される学齢の高低と比例している。

各学制での学年別の成績：

- (1) 大学の一年生と二年生、それから五専の一年生と二年生、四年生と五年生の差異が最も大きい。
- (2) 大学の二年生と三年生、それから五専の三年生と四年生の差異が最も小さい。
- (3) 四技では、二年生の成績が最も良く、一年生と三年生を抜いている。これは学生の学習態度で違ってくるのと教師インタビュー結果にある通りであると思われる。

全学制・学年にわたって、三項目試験の成績では、五専の五年生と大学の二年生の両者の平均得点が最も接近し、且つ全受験者の平均得点に最も近い。

性別で見ると、男女の三項目成績はほぼ同じとなっている。

学校の「聴く」、「書く」、「話す」、「読む」での授業比率を高低順で見ると、「読む」、「話す」、「聴く」、「書く」という順になっている。

学校での授業内容と今回の試験との関連性についてのアンケート調査結果、教師も学生も、今回の聴力、用法、語彙・読解という三項目試験は、学校との教学に関連していることを認めている。社会人受験者の成績との比較において、三項目試験の合計成績は今回の在学者受験生より劣っている。しかし、試験項目別で見た場合、社会人の語彙・読解が在學生より優れている。

今回の研究計画において、限られた状況の中で、各学制、学年のサンプル代表性についてできるかぎり配慮しており、サンプル総数としての代表性に特に問題はないが、一部の学年別サンプル数がやや少数であるため、ご引用の際、過度の解釈にならないよう、

お使いになることを願う次第である。

研究計画の実施期間中、学生の基本データの作成、試験実施、諸連絡事項、また抽出されたサンプル学生の試験参与などにご協力いただいた各学校、及び語言訓練測驗中心の関係者に、感謝の意を申し上げたい。

【参考文献】

- 日本語教育学会代表 林大 1991『日本語テストハンドブック』
東京 大修館
- ライル F バックマン 1997『言語テスト法の基礎』
東京 みくに出版
- 郭生玉 1997 『心理與教育測驗』 11 版，台北，精華書局
- 語言訓練測驗中心 2002『英語能力測驗成績統計報告(民國 89~90 年)』，台北，語言訓練測驗中心